

Edward Baugh 氏来日に寄せて

松田 智穂子

本号に掲載されるエドワード・ボウ氏の講演原稿“Caribbean Theatre: A Post-Colonial Story”は、2014年10月13日に専修大学人文学研究所主催の講演会「カリブ海地域における演劇と言語—ポストコロニアルの現代から」において読まれるはずだった。しかしながら本州に上陸した台風19号の影響により、4時限目以降は全授業休講との大学側の判断を受けて講演会も急遽キャンセルされた。講演会を心待ちにしてくださった方々、連絡が間に合わず来校された方々にはこの場を借りて深くお詫びを申し上げたい。

ボウ氏は文芸評論家、詩人、大学で英語の文学と評論を教える研究・教育者として、半世紀にわたり現代カリブの知性と感性を代表してきた人物のひとりである。氏は1936年1月10日にジャマイカのポート・アントニオで生まれた。1964年に英国マンチェスター大学より博士号を、後にカリブ海地域で最も権威ある教育機関である西インド諸島大学より文学名誉博士号を授与されている。同大学のジャマイカ・モナ校英文学科で長年にわたって教鞭を執り、同科の学科長、教養学部学部長、大学院モナ校委員会および試験委員会委員長を務めた。またカリフォルニア大学ロスサンゼルス校(UCLA)やワシントンD.C.のハーワード大学などにも客員教授として赴いた。ジャマイカ国立図書館・放送委員、ジャマイカ出版協会委員長などの公務を歴任し、1989年から1992年まで英連邦文学言語研究協会(ACLALS)の会長を務めた。

1992年にノーベル文学賞を獲得した英語圏カリブの詩人・劇作家であるデレク・ウォルコットの作家・作品研究の第一人者としてもカリブ内外で知られ、多数の評論および学術的著作を残している。代表的なものは、評伝 *Frank Collymore: A Biography* (Ian Randle, 2009)、評伝 *Derek Walcott* (Cambridge, 2006)、Colbert Nepaulsingh との共著 *Derek Walcott: Memory as Vision: "Another Life"* (Lynne Rienner, 2004)、編著 *Critics on Caribbean Literature* (Allen & Unwin, 1978)、*Derek Walcott: Memory as Vision* (Longman, 1978) などである。詩人としても、三冊の詩集 *A Tale from the Rainforest* (Sandberry, 1988)、*It Was the Singing* (Sandberry, 2000)、新・選詩集 *Black Sand* (Peepal Tree, 2013) を出版している。

初来日となった今回、氏は六日間の滞在中に二回の講演を行う予定だった。10月11日の一般社団法人・日本詩人クラブ主催「国際交流カリブ(CARICOM)2014」では、カリブの詩学をテーマに「文化と復興力—その逆転のダイナミズム」と題された講演を行った。その二日後の専修大学での講演会のために、氏はカリブの現代演劇に焦点を当てた内容を用意していた。20世紀英語圏カリブ海地域の、特に第二次大戦前後に独自性を獲得して大きく発展を遂げた演

劇 (Theatre and Drama) の概観である。長きにわたり間英国などヨーロッパ諸国の植民地支配下に置かれた同地域において、社会と時代に密着した芸術ジャンルである演劇が如何様なものであるかは、学生や研究者を含む日本のオーディエンスにとっても興味深いものとなっただろう。

悪天候により、ボウ氏の知的な物腰と人柄、穏やかながら説得力に満ちた話しぶりを日本のオーディエンスにご覧いただけなかったのは残念であるが、『人文学研究会月報第 274 号』の誌面に原稿全文を掲載する機会に恵まれたことを嬉しく思う。